

造林推進と森林保全で

榎谷幸三郎さんが 林野庁長官賞に

茂市の榎谷幸三郎さん(77)が、平成17年度緑化功労者としてこのほど林野庁長官賞を受賞しました。

榎谷さんは昭和20年代から造林推進のリーダーとして村内の森林所有者に拡大造林を働きかけながら、自身が所有する森林101畝でも人工造林を積極的に行ってきました。結果、現在榎谷さんが所有する人工造林率は、岩手県の民有林人口率44%を大きく上回る72%に達しています。

また、榎谷さんは民有林看守員を昭和33年から平成16年までの47年間務めるほか、山火事予防の呼び掛けなど森林の保全管理に貢献しました。

約半世紀にわたって活動してこられた榎谷さんは「これからも頑張つて続けていきます」と力強く話していました。

表彰式は5月21日、岐阜県下呂市で行われた57回全国植樹祭の席上で行われました。



感謝状を手にする榎谷幸三郎さん

普代っ子の将来に意見交換 学びを考えるワークショップ

普代村の学びを考えるワークショップ(村教委主催)が4月13、14



子育てについて自由に意見交換しました

の両日、国民宿舎「くろさき荘」で開かれ、参加者同士が自由に意見交換しながら普代っ子の将来について考えました。

村内の教育関係者を主に約30人が参加。平井ふみ子さん(宮古市教育委員長)を進行役に「教育は何歳からか」「子どもたちの悩み」などをテーマに、

5つのグループに分かれ語り合いました。子どもたちについて「どんな人間になつてほしいか」では「生きていく力」「相手を思いやる」「感謝の心をもつ」などの意見が出されました。

平井さんは、「情報があふれる今、親も子も正しい情報を読み取る力が必要です。その情報は学校だけでなく、人生の中、暮らしの中に生きていくさまざまなヒントがあります」と訴えていました。

林業、集落の活性化へ

林道や用水施設完成

村で森林管理道や集落林道、用水施設を整備する森林居住環境整備事業の完了記念式典が4月29日、堀内机地区の森林管理道で開かれました。

役場職員や工事関係者、地権者ら約50人が出席。深渡宏村長は「森林管理道などの整備は村にとって必要な事業です。林業普及や森林愛護にもつながります」



テープカットで完成を祝う深渡宏村長ほか関係者の皆さん

とあいさつ。関係者の皆さんはテープカットや渡り初めを行い完成を祝いました。

鳥茂渡小、堀内小の児童10人も参加し、久慈地方振興局の職員から森林の役割や重要性について講義を受けた後、整備された道路を自転車で走りました。同事業は平成13年度から始まり、県による堀内机地区と茂市地区を結ぶ約5・8kmの森林管理道の開設、村による鳥居地区の集落林道約1・1kmの整備、堀内机地区周辺の水道施設整備が行われ、総事業費は約17億1千万円です。